

観音寺中学校 道徳通信 6月号

5月から6月にかけて、体育大会、中間テスト、修学旅行と本当にたくさんの行事がありました。子どもたちはそれぞれの集団での活動を通して、多くのことを学び、またクラスの絆も深まってきているように感じます。互いを知ってきたからこそ、さらに仲が深まる日常が過ごせるようになるといいなと思っています。



今回は、5月に実施した1年生の道徳の授業を紹介します。

『いじめに当たるものはどれだろう』 【公正、公平、社会正義】

教室の様子を描いた場面絵を用いて、いじめにつながる行為やそう判断した理由について話し合いました。また、どうしてこのようないじめに当たる行為はなくなるのか、だれに対しても公平な社会を実現するために大切なことは何なのか、さまざまな意見を通して、深く考えました。

授業の感想（生徒記述より）

自分が発言したり、行動したりするときにそれが良いのかどうか自分基準で考えず、相手がどう感じているのかしっかり考えるようにする。それでも失敗したときはきちんと謝ったり、失敗しながら人との関わり方を学んでいきたい。

いじめは人の手で止められることなので、どうやって止めればよいか次からは考えていきたい。

相手のいやなことをしてなくても、注意をしないとそれはいじめで、傍観者になるのではなく、注意できる人になりたいです。

遊びでお互いが笑っていても、心の中では泣いているかもしれないから一つひとつの行動に責任をもって行う。まわりにいじめがあったら、必ず注意できるようにする。

小学校の時は、注意したりすることが怖くてできなかったのも、それ無くせていけたらすごくいいクラスになっていくんだと思った。なので、「自分に関係ない」ではなく、ちゃんと注意できる人になりたい。

いじめとケンカの違いが今までよくわからなかったけど、今日の授業でちゃんと違いがわかって良かった。



遊びでお互いが笑っていても、心の中では泣いているかもしれないから一つひとつの行動に責任をもって行う。まわりにいじめがあったら、必ず注意できるようにする。

今まで見て見ぬふりをしてきたことが多くあったと思います。なので、これからは見て見ぬふりではなく「大丈夫？」と声をかけられるようにしたい。

自分がいじめをしていないと思っても、傍観者になるだけ。ちょっとくらいやこれくらいだけでもダメなので、自分の発言に気を付けたい。

返信をありがとうございます。～道徳通信5月号の返信より～

- ・本当の自分で自然にいられる友だちと出会ってほしいです。これからの長い道のりを一緒に歩める友達がいればいいですね。必ずいますよ。
- ・どんな時でもありのままの自分を出し切れる自分の居場所が誰しも必要だと思う。良い面も悪い面も自他共に認め合えるよう相互理解を深め互いに尊重し合うことを大切にほしいと思う。
- ・子どもたちのしっかりした意見を読ませてもらい感動しました。素晴らしいですね。それぞれの意見を述べられていたことが素晴らしいです。大変勉強になりました。そして、中学校の先生たちはなんと熱意があるのだろうと。子どもの話を聞いて日々感じています。学校が楽しい、と言える子どもの姿が見られて嬉しいです。真剣に取り組んでくださっているの、子どもの話からよくわかります。感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。
- ・毎日偽りの自分で過ごすと思えるのに、どうしても自分が出せない中学生のもどかしさを知りました。そんな偽りの自分も認める大切さにも気づきました。親として子どもが頑張りすぎていたら、そっと見守りながら、受け入れてあげたいと思いました。
- ・どちらの自分も自分と認めて、もっと自分を大切にすることを学んでほしいと思いました。

ご返信、ありがとうございました

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。